

琉球大学学術リポジトリ

[調査報告]学生主導型地域医療実習が地域医療教育にもたらす可能性

メタデータ	言語: 出版者: 琉球医学会 公開日: 2012-12-11 キーワード (Ja): キーワード (En): Community-based medical education, fieldwork, student-directed, remote island healthcate 作成者: 上原, 周悟, 座間味, 知子, 武村, 克哉, Uehara, Shugo, Zamami, Tomoko, Takemura, Katsuya メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016250

学生主導型地域医療実習が地域医療教育にもたらす可能性

上原 周悟¹⁾, 座間味 知子¹⁾, 武村 克哉²⁾

¹⁾琉球大学医学部医学科, ²⁾琉球大学医学部附属病院地域医療部

A possibility of community-based medical education provided by student-directed fieldwork in the community

Shugo Uehara¹⁾, Tomoko Zamami¹⁾ and Katsuya Takemura²⁾

¹⁾Faculty of Medicine, University of the Ryukyus

²⁾Division of Community-based Medicine and Primary Care, Ryukyu University Hospital

ABSTRACT

Rural areas in Japan have a shortage of doctors, and Okinawa is no exception. Since 2009, Faculty of Medicine, University of the Ryukyus has introduced a selective admission for medically underserved areas, as well as other medical schools. Many medical schools has focused on community-based medical education, however, it has not well established. We conducted a student-directed fieldwork in the community on March, 2011. The participants are 57 students among 10 universities. They experienced various activities including observations of clinic and nursing home, home visits, health education in elementary school and interaction with community people. The student participants increased not only understanding of community medicine, but also motivating force by exposing to expectations of community people. This report indicates that student-directed fieldwork would be useful tool for community-based medical education. *Ryukyu Med. J., 30(1~4)55~60, 2011*

Key words: Community-based medical education, fieldwork, student-directed, remote island healthcare

はじめに

日本全国で地域医療崩壊が叫ばれる中、沖縄県においても本島北部地域や離島中核病院における医師不足などに代表されるような地域医療に関する様々な問題を抱えている。琉球大学医学部医学科ではそれに関連し、平成21年度より地域枠学生制度が創設された。また、平成23年3月に改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、その改訂の概要に「地域の医療を担う意欲・使命感の向上」が掲げられ、より一層の地域医療教育の充実が望まれており、その具体的な教育方法について現在も様々な試みが行われている^{1,2)}。

今回、琉球大学地域医療研究会（琉球大学認定の学生サークル）が企画・運営を行い、「第1回地域医療を学ぶための学生セミナー2011 in おきなわ」（主催：琉球大学医学部医学教育企画室、共催：琉球大学医学部附属

病院地域医療部、琉球大学医学部附属病院地域医療システム学講座、琉球大学医学部附属病院地域医療教育開発講座、公益社団法人地域医療振興協会）の一環として、“学生主導による地域医療実習”を行ったので報告する。そして、本実習において学生が何を学び、またどういった成果を上げ、さらに今後どのように活かされるべきかについて考察する。

実習方法と実習内容

I. 実習方法

沖縄県を開催場所とし、10大学・57名の地域医療に関心のある1年次から4年次の医学生及び薬学部生が、沖縄県内の離島や沖縄本島北部地域に各地域4名ずつに分かれ、平成23年3月9日から3日間のフィールドワーク実習（地域医療実習）を行った。また、4日目にはワー

Table 1 Overview of the participants

旭川医科大学	2名	和歌山県立医科大学	1名
秋田大学	2名	琉球大学	39名
自治医科大学	3名	大阪薬科大学*	1名
三重大学	1名	神戸学院大学*	1名
徳島大学	6名	鈴鹿医療科学大学*	1名
学年別内訳：1年22名，2年19名，3年11名，4年5名			
*薬学部からの参加			
			合計 57名

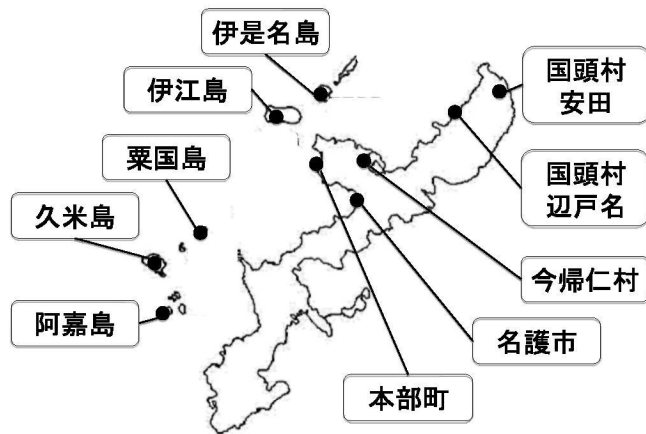


Fig. 1 Map of the fieldwork area.

クシヨップを行い、それぞれの体験を報告し合いながら様々な角度から地域医療について考えた (Table 1) (Fig. 1). さらに、実習中に触れ合うことの出来た地域住民に対し、質問紙を用いた半構造化インタビューを可能な限り行い、学生に対する期待や要望について101名の方から回答を得た。また、地域医療実習に参加した全ての学生に対して実習前後でアンケート調査を行い、地域医療に対するイメージの変化や実習を通して学んだこと、さらに学生が地域医療の現場で果たすべき役割について質問票に記入してもらい、全ての学生から回答を得



Fig. 2 Meeting of students committee members and faculty.

た。そして実習内容の決定に当たっては、各実習先グループの学生リーダーと学生実行委員が中心となり、実習スケジュールの組み立てや実習先との調整、宿泊先や移動手段の確保など、実習に関わるほぼ全ての企画・運営を主催機関の監督の下で学生が行った (Fig. 2).

II. 実習内容

実習内容は病院や診療所の見学に限らず、訪問診療や保健師付き添い実習、小・中・高等学校訪問など多岐にわたった。以下に主な実習項目を記す。

A. 病院・診療所実習

離島及びへき地の病院や診療所、歯科診療所の見学実習を行った。ドクターヘリや夜間の漁船による緊急搬送にも立ち会い、離島やへき地が抱える“距離”の問題を実感した (Fig. 3)。また、地域住民の断酒会にも参加し、診療所医師の診療所外での地域活動にもふれた。

B. 訪問診療・看護

医師・看護師の訪問診療・看護に同行した。独居

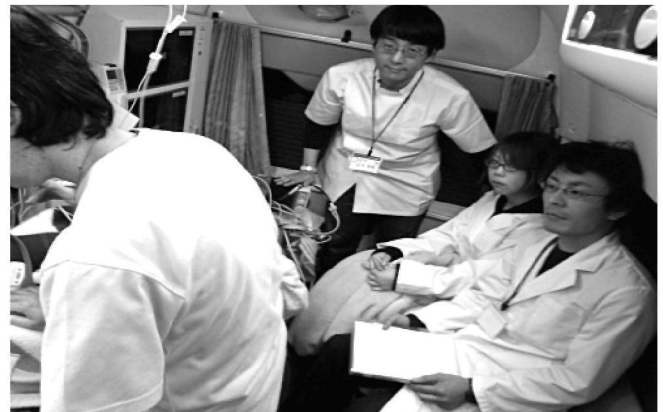


Fig. 3 Transportation to hospital by ambulance boat.



Fig. 4 Smoking prevention education for elementary students.

の高齢者や障害者の自宅を訪問し、日常生活動作（ADL）や手段的日常生活動作（IADL）の評価と服薬確認を見学しながら、へき地での訪問診療の実際について知ることができた。また、島に診療所の無い地域では、橋でつながる隣の島より医師が出向き、公民館で診察を行う様子も見学した。

C. 保健・福祉施設訪問

保健センター（地域包括支援センター）の社会福祉士・保健師・ケアマネージャーの方々に同行し、保健指導や介護、公衆衛生活動を見学した。そして特別養護老人ホームやデイサービス訪問では、食事・入浴介助や歩行訓練、血圧測定、レクリエーションを通して利用者との交流を行った。

D. 市町村の取り組み・行政との関わり

市町村長や行政職員と対談し、行政と医療との連携の重要性について考える機会を持ち、また診療所と役場との連絡会議の様子を視察することで、地域医療における医療と行政との関わりを実感した。

E. 小・中・高等学校訪問

医学部への進学が少ない地域の小・中・高校生に医療に対する関心を持ってもらい、将来地元で医療に携わる人が増えてほしいという思いで交流会を行った。小学校では、将来の夢を語り合うことを通じて児童と医学部・薬学部生との交流を深めたり、タバコの害の講演による健康教育を試みた（Fig. 4）。また中学校では、校長先生との対話を通して生徒の進路や中学生が抱える保健・健康の問題点及び医学生への要望などについて話し合った。そして高校生との交流会では、北部地区の医療の現状や医学生の生活、受験及び地域枠学生制度の紹介などにより具体的な医学部進学について意見交換を行った。またタバコの害の講義や、実際に白衣を着てもらいながら聴診器や打腱器の使用、血圧測定の体験を通して



Fig. 5 Stethoscope experience by high school students.

医療に興味を持ってもらえるよう働きかけた（Fig. 5）。

F. 農業体験

農村地域の生活を知ることなどを目的に農業体験を行った（Fig. 6）。さらに、食の安全を通して地域住民の健康増進に関わっている診療所医師の活動に触れることで、食の観点から地域医療を考えることができた。

G. 地域住民との交流・地域散策

住民宅での食事会や住民への聞き取り調査を行い、医学生への期待や要望を知ることを通して、実際に地域の声を聞きながら地域医療を学ぶことの重要性について考えることができた（Fig. 7）。

III. 振り返りと意見交換

3日間の地域医療実習後にワークショップ形式で振り返りと意見交換会を行った。ワークショップでは「フィールドワーク（地域医療実習）で何を学んだか?」、「地域医療で学生が果たす役割とは?」をテーマに、より多くの人と話す機会を持つ事が可能なワールドカフェ方式を用いて振り返りを行った。その中で学生は、各実習先で学んだことや感じたことを報告し合いながら地域医療について様々な意見を交わし、活発な議論を行った（Fig. 8）。

地域医療実習の成果

I. 学生が実習で学んだこと

地域医療の概念の一つとして、「地域に生活し、住民が抱える様々な健康上の不安や悩みをしっかりと受け止め、適切に対応するとともに、広く住民の生活にも気を配り、安心して楽しく暮らすことができるよう、見守り、



Fig. 6 Agricultural experience.



Fig. 7 Interview with people in the community.



Fig. 8 Workshop after the fieldwork.

支える医療活動」と唱えられている³⁾。今回参加した学生は、地域医療や離島・へき地医療に以前より興味がある学生であり、それぞれの実習地域で地域の住民と意見

交換を重ねたり、医療施設以外の場所に赴いたりしながら、各々の地域の特性や医療の実態を学んだようであった。実習前後に参加学生に対して行ったアンケートの中でも、「地域医療には様々な業種が協業していること」、「地域医療従事者に求められる資質」、「地域で生きることの重要性」など、地域医療に関連する様々なことを理解していた⁴⁾。

また、実習中に診療所内の待合室や集落内の住宅を訪問しながら行ったインタビュー調査により、「医療だけでなく、地域とふれあっているいろんなことを学んで欲しい」、「地域で基礎的な一般医療を学んでから専門分野に進んでほしい」といった地域の方々の生の声を実際に聞きながら地域医療実習を行うことで、より現実感を持って地域医療について考えることが出来た (Table 2) (Table 3)。さらに参加学生からは今後、種々のアンケート調査や公衆衛生的な調査研究を盛り込んだ実習も行っていきたいといった声も上がり、実習を通して発見した医療の課題に対し積極的にアプローチしていきたいという姿勢も伺われた。

II. 学生による地域医療への貢献

学生が地域から学ぶのみならず“医療人としての立場で地域へ働きかける”ことも重要であると考え、減塩を促す手作りポスターの地域住民への配布や、小学生・高校生を対象にタバコの害についての講演会による健康教育も行った (Fig. 9)。そして小・中・高校生に医療へ関心を持ってもらうことで将来の地元の地域医療活性へ繋がるような試みも併せて行った。小学生・高校生への健康教育方法として、医師よりも児童や生徒に“より近い立場”にある学生から積極的にアプローチする peer education の手法を用いた。児童らの健康意識を高め、さらにその健康意識が児童らの親に伝播することにより、疾病の予防の側面から地域医療に対して学生が十分貢献することが出来る可能性を感じた。

III. 学生間での交流

地域医療に興味があり、将来地域医療に携わりたいと考えて大学に入学した学生は地域枠学生以外にも多くいると思われる。実際、本実習の参加者57名中、本学の地域枠学生と自治医科大学生を除いた36名は地域枠学生ではない。そして、そのような地域医療に関心のある学生同士が地域医療について共に考えるといった機会はこれまでそう多くはなかった。今回、全国から参加した医学部・薬学部生から、地域医療実習やワークショップを通してお互いの地域医療に対する考え方から将来の医師像といったことまで幅広く意見交換をすることが出来た。また、同じ思いを持つ仲間に出会うことが出来て心強く感じ、モチベーションが向上したという声が多く聞かれた。

Table 2 Expectations and requests of the community people to students

- 心のケアができる名医になってほしい。
- 医師の頻繁な交代が不安なので、将来へき地に長く勤務する医師となってほしい。
- もっと本島北部地域に勤務する医師が増えてほしい。
- 医療だけでなく、地域とふれあって色んなことを見たり聞いたりして、多くのことに関心を持ちながら学んで欲しい。
- へき地医療の事を勉強してから、へき地勤務してほしい。
- 気になったところは些細な事でも質問してほしい。
- 地域で基礎的な一般医療を学んでから専門分野に進んでほしい。
- たくさん勉強して、研究も頑張してほしい。
- 地域の食生活を勉強してほしい。
- そもそも話を聞いてもらえることが嬉しい。無医地区であった場所に興味を持ってもらい感謝。
- 学生が来るのは大歓迎なので、是非また来てほしい。

Table 3 Comments of the participants

- 地域医療の魅力、やりがい、大変さがとても伝わってきた。
- 地域医療とは、地域の特性を理解し、その地域と住民に愛着を持ったうえで行われるべき医療。僻地の病院だけではなく、大学病院や地域の中核病院もすべてが地域の構成要素で、それらすべての医療機関が一丸となって、相互関係と平等関係をもとに行う医療だと考える。
- 自分の住んでいる地域と異なる面が強く、そこでの医療はどのようにしていけば良いのか考えさせられた。
- 島の人に「またおいで」と言ってもらえた。
- よく学び、医学生としての知識と人としての常識を身に付け、地域について知り、次に外に出て地域の実情を見ることが大切だと思った。その学んだことを広く伝え、より良い地域医療の実現にはどのような医師が求められているか考え、そうなる努力をすることが学生の果たすべき役割だと思った。
- 「治療」だけが医療ではないという実態を見ることができた。地域では特に予防が必要だと思う。その予防に関わることが学生の役割であり、将来の患者の減少につながればと思う。
- 名護高校で行った交流会のように、即効性はないにしても、医学を遠くにしか感じていなかった高校生に医学生を通して医療、医学を身近に感じてもらうきっかけを作るとは素晴らしいことだと思った。その地域から医学部へ進学する人が出れば、将来その地域の医療が変る流れを作ることが出来るかもしれないと思った。
- 「地域を知る」という一方通行の取り組みではなく、小、中、高校生や地域の方々には何か還元できることを探し、実行していくべきと感じた。
- 学生たちで相談しあって内容を決定し、自分たちにできることを常に意識して行動することができたので、とても良かったと思う。みんなが一緒になってつくったプログラムだったからこそ、普段は注目しなかった共同売店についてもしっかりと見ることができた。自分たちで計画実行することが地域医療を学ぶ近道になると思った。
- 今回の実習は、低学年の自分たちにとってベストな内容だったと感じる。
- こんなにも地域医療について真剣に考えている学生がいることに気づけたことも刺激になった。一人でも多くの人と地域医療への熱い思いを分かち合いたい。
- 地域医療への思いを燃やし続けるためにも、学生のうちから現場に出続けることが重要だと思う。
- 県外生と一緒にだったので、自分たちと異なる視点、考え方からの意見や質問を聞くことができた。
- 定期的にフィールドワークを行うことにより、医学に対する勉強の意識を高く保つことが出来ると思う。
- 地域医療だけでなく自分の将来像を考えたりと自分とも向き合える良い機会になったので是非他の人にも勧めたい。
- こういった、他の地域の医療、とくに離島フィールドワークは誰もが体験出来ることではない。知らない人も多い。だから、自ら足を運ぶことの大切さ、得たものについて語って、興味を持つ人が増えて欲しい。
- 「仲間作り」が本当に大切なことだと今回の学生セミナーを通して改めて確認できた。他の人に勧めることで、仲間の輪が広まると思う。

学生が実習を主導することの意義

地域医療実習の効果についてはこれまで様々な報告がなされている^{5,6)}。岩崎らは、地域医療実習が地域医療への医学生の理解と親和性を高め、将来、地域で医療に従事することに影響を与えると報告している⁷⁾。しかしながら、一口に地域医療実習と言ってもその形態は様々

であり、本実習のような学生主導による地域医療実習はあまり報告がない。今回、学生が実習を主導したことによる効果として、企画・運営をした学生と実習に参加した学生双方の能動的かつ積極的な態度を引き出したことが挙げられる。実際、学生が一から計画を練り上げながら事前準備を重ね、地域にも何かを貢献できればという思いで行動したことは、地域医療に関心の高い学生が参



Fig. 9 Dietary salt reduction poster made by students.

加したことを鑑みても積極的であったと思われる。そして、参加学生の積極的な態度が学ぶ側にとって重要であることは当然のことと思われるが、同時に実習受け入れ先にとっても強く望まれることであろう。これまでも Kollisch らが、学生の家庭医療実習に協力している診療所の医師が、学生教育で得られる楽しさや学生からの刺激といった目に見えない報酬を非常に重要と考えていると報告していることから⁸⁾、実習に参加する学生の積極的な態度は、学ぶ側と受け入れ側の双方にとっても大切な要件であると考えられる。また、そのような態度は実習受け入れ先との信頼関係を構築し、実習そのものを継続的に開催する上でも不可欠な要素である。このような観点からも、学生の積極的な態度を引き出した学生主導型による地域医療実習の意義は大きい。今回、学生主導型地域医療実習が地域医療教育に非常に効果的であることを実感した。

おわりに

今回のような学生主導型の地域医療実習は全国でもあまり報告がない。企画段階から学生が主体となって地域医療実習に参加することにより、学生の積極的な態度が引き出され、学生と医療関係者や行政、地域住民とのコミュニケーションの機会が増えることが示唆された。これらは地域医療従事者に求められる資質であるリーダーシップ能力やコミュニケーション能力の向上に繋がるものである。学生主導型地域医療実習が地域医療教育に与える影響について、大学が継続的に検証し、その有用性を明らかにすることにより、今後の地域医療教育の発展

に寄与する可能性がある。

謝辞

本実習を行うに当たり、実習を受け入れて下さった施設や関係者の皆様、沖縄県内外から参加して頂いた学生の皆様、琉球大学医学部医学教育企画室、琉球大学医学部附属病院地域医療システム学講座、琉球大学医学部附属病院地域医療教育開発講座及び、公益社団法人地域医療振興協会に対し、深く感謝の意を申し上げます。

文献

- 1) 岡山雅信, 梶井英治: 地域医療実習への標準プログラム導入の効果. 医学教育 35: 197-202, 2004.
- 2) 石川雅彦, 前沢政次: 卒前医学教育におけるプライマリ・ケア実習. 医学教育 35: 327-330, 2004.
- 3) 梶井英治. 地域医療を担う医師の養成. 日本内科学会雑誌 92: 2357-2363, 2003.
- 4) 羽柴 淳, 上原周悟, 川木詠美, 座間味知子, 武村克哉: 学生企画によるフィールドワークがもたらす地域医療教育の新たな展開. 医学教育 42 suppl.: 166, 2011.
- 5) Howe A., Ives G.: Does community-based experience alter career preference? New evidence from a prospective longitudinal cohort study of undergraduate medical students. Med Educ. 35: 391-397, 2001.
- 6) Hyppola H., Kumpusalo E., Virjo I., et al: Evaluation of undergraduate medical education in Finnish community-oriented and traditional medical faculties a 10-year follow-up. Med Educ. 34: 1016-1018, 2000.
- 7) 岩崎拓也, 竹山宜典, 伊木雅之, 伊藤浩行, 大柳治正, 塩崎 均, 松尾 理: 地域医療実習による学生の意識変化と地域指向性との関連—和歌山県東牟婁郡串本町における地域医療教育—. 医学教育 42: 101-112, 2011.
- 8) Kollisch D.O., Frasier P.Y., Slatt L, et al: Community preceptors' views of a required third-year family medicine clerkship. Arch Fam Med. 6: 25-28, 1997.